

【網走市】

■ 調査項目

- ①合葬墓に対する取り組みについて
- ②健康事業推進の取り組みについて

・ 調査対応者

網走市議会 山田庫司郎議長
議会事務局 永倉一之事務局長
市民部生活環境課 梅津課長
健康管理課 笹尾課長

・ 調査期日

平成28年 7月12日（火）9時30分～11時30分

・ 市の概要

人口：36,513人
世帯数：18,111世帯

・ 調査目的

①呉市では、戦前からの市営墓地が、管理不全な状態で放置されている墓が20%近くあると言われていています。

数年前から議会で指摘しているが、改善が見られません。

そこで合葬墓を設置することで改善のための方策があるのではと考え、先進地を訪問することにした。

②呉市でも10年程前から健康呉体操を運動推進委員が中心となって行っているが、全国的に市内普及率が高いとテレビでも取り上げられた網走市の普及方法を学ぶため、視察に訪れることとした。

・ 調査内容

【網走市からの説明】

①平成23年度末に市営墓地の残区画が23区画となり、造成工事の検討を行った。そこで以前より議会から要望があった合葬式墓地が市民からの要望が強いということで、他都市（小平市、横浜市等）を研究した結果、建設することにした。

合葬式の場合は、宗教上の問題があると考えられるが、戒名などといった宗教色は、墓標には刻まず、氏名だけとしている。

また慰霊祭も市が行わず、墓地管理会社が年一度献花式として執り行い、市関係者が参列し献花する。

やはり政教分離と宗教団体については、注意する必要があるとのこと。

②カニッチョ筋体操については、筋力アップを目的に市制60年の記念でスタートして、基本・ポップ・椅子の3つのバージョンで市内に拡大していった手作りの体操であるが、いろいろな行事に職員が出て広めていき、着ぐるみ衣装、Tシャツ、バックなどのデザインも自分達で行い、特にイベントへは積極的に参加することにより全市域に広めて参りました。

【質疑応答】

①Q 1. 民間墓地会社や寺院からの反対意見はなかったか

A 1. 市内には民間墓地はなく、又、寺院からも問題ないとのことだった。

Q 2. 使用料と管理料の根拠は

A 2. 設計から建設までの費用を予定300体で割って算出し、管理料は30年間の民間委託料から算出した。

Q 3. 合葬墓に対する市民の反応はどうか

A 3. 少子化や高齢化など社会情勢の変化から、核家族、非婚などライフスタイルが変化し、承継者不在の不安を考えると好意的で増加傾向であると考えている。

Q 4. 利用状況はどうか

A 4. H25年10月から募集開始して、H28年6月末で473名が応募し、164件納骨している。当初を超える数は墓地に対する意識の変化と考えている。

②Q 1. カニッチョ筋体操のポップバージョンが拡大に影響していますか

A 1. やはり子ども達が踊ることが親にも良い効果がある。

Q 2. デザインはどのように

A 2. 健康管理課の保健師でデザインの得意な職員が進んで行き、良い方向にしている。

Q 3. 今後は

A 3. 市制70年が来年あるので、高齢化用のスローバージョンと体操指導者の育成を目指します。

Q 4. なぜ健康事業が推進できたと考えられますか

A 4. 当市には、東京農業大学の網走キャンパスがあり、同校の健康科学研究室の桜井先生の指導協力が大きいと考えています。

【呉市での展開の可能性】

合葬墓については、現在、呉市営墓地の管理を考える上で必要不可欠であると思った。それは放置墓地をどうするか考える時、撤去したが合葬墓に埋葬することにより、道義的責任が果たせる。そして社会環境の変化による家庭環境・ライフスタイルの変化に対応した埋葬方法として市民のニーズがあると考ええる。放置墓地の整理により、新たな区画の貸し出しができ、それが新たな財源の確保になり良いことだらけで、呉市にとって有意義な施策と考えます。

またカニチヨ筋体操についてですが、健康呉体操と比べて市民普及度が数段高い。呉市も幼児から子どもに広げることで、市民の普及率が上がり健康事業が楽しくなると思う。子ども達が楽しくできるバージョンを提案したい。

【札幌市】

■調査項目

資生館小学校及び子ども複合施設について

- ・調査対応者

札幌市立資生館小学校
事務主任 川嶋宗一郎

- ・調査期日

平成28年 7月13日（水）10時～12時

- ・市の概要

人口：1,913,545人
世帯数：1,000,508世帯

- ・調査目的

平成16年3月に策定した呉市立学校統合基本方針は、平成18年、21年の2回の改定を経て、予定年次が記された平成28年4月までの統合が終了しました。今年度中には、次の年次を示した改定が行われると思います。そこで旧市内の統合も視野に、都市型の統合先進地、そして子育て支援策となる小学校を含む子ども複合施設を視察し、先進事例を学ぶ目的で札幌市に出向くこととした。

- ・調査内容

【札幌市からの説明】

平成10年以降、都市部のドーナツ現象により4校の児童数減少が続き、出生率も0.81と全国平均を大きく下回っていた。そこで平成11年に「札幌市学校適正規模検討懇談会」を設置し、会議を重ね平成13年に統合を決めて、H16年4月の開校となった。開校と同時に児童会館（保育所・子育て支援総合センター）を併設し、子育ての拠点とした。

この施設について、市民の反応は良く、出生率の増加はないが減少も止まりまず効果があったと思っている。

【質疑応答】

Q 1. 開設12年が経過し、児童数の変化は

A 1. 増加時の教室も確保していたが、概ね増減なしである。

Q 2. 維持管理費はどれくらいか

A 2. 約67,000千円で8割が教育委員会の負担である。

Q 3. 建設費と財源は

A 3. 40億円の建設費で30億円の1/3が補助金である。

Q 4. 併設保育園からの資生館小学校への進学率は

A 4. 約1割が同小学校へ入学します。

Q 5. 保育時間を昼型と夜型にしているが

A 5. 都市部のため労働の多様化に対応するために行っているが、ニーズがあり市民は喜んでいる。

【呉市での展開の可能性】

今からの統合については、教育だけの視点ではなく子育て支援策として施設整備を考えるべきであると思った。

又、統合時の学校の歴史をもっとも大切にすべきで、資生館小学校のようにメモリアルホールを作るべきと思った。

呉市では、小学校の統合、保育所の統合、そして改築が今後考えられるので、新たなあり方と考え、呉市で生み育て、教育したくなる施設や施策を新たに考えなければならないと考えさせられた。